

2024 年度「NP0 法人・礎の石孤児院」活動報告書

NP0 法人礎の石孤児院の活動は、2024 年度においても大きく前進いたしました。

特にザンビアでは、首都ルサカ市内のスラム地区の子どもたちのためのプライマリースクール（小学校）と、ルサカ郊外に開校したセカンダリースクール（中・高等学校）への就学支援がさらに本格的に進められております。

また、インターネットを用いたザンビアの学校支援のためのクラウドファンディングを行ったところ、約 100 名の方々がご支援くださり、1,027,000 円の支援金が集まりました。（手数料を引かれ、入金 は 834,951 円）

また、事務局では毎月インターネット・ミーティングを行い、インターネットを用いての広報活動を強化し、ホームページ、Facebook、ツイッター、インスタグラム等の SNS、ニュースレター、パンフレットなどを通して、礎の石孤児院の働きを多くの方々に知っていただいています。

* 国内の活動 *

- 4 月 * 礎の石孤児院理事会をオンラインで開催し、総会の議案を承認した (4/20)
 * 独立行政法人国際協力機構 (JICA) のホームページに、ザンビアの AIDS 孤児支援の報告書が掲載された。

-
- 6 月 * 第 23 回 NP0 法人「礎の石孤児院総会」をオンラインで開催した。(6/15)
 * 日本に一時帰国していたブラジルの松本弘子さんは、休暇を終えブラジルに戻った。

-
- 8 月 * 日本に留学していたカンボジア孤児院のナオミは、1 年間の留学を終えカンボジアに戻った。

-
- 11 月 * 東京コミュニティー財団ファンドクリエーション基金より助成金の 50,000 円を受け、フィリピンの就学支援のための学用品購入に用いられた。

-
- 12 月 * 兵庫県川西市で「礎の石支援クリスマスチャリティーコンサート」が行われ、294,926 円の募金が集まった。
 * ザンビアの学校支援のためのクラウドファンディングを開始した。
 * ブラジルの松本弘子さんが日本に一時帰国した。
-

2025 年

- 1 月 * 東京・原宿で礎の石孤児院のチャリティ路上ライブが行われ、約 25,000 円の募金が集まった。(1/1)
- * ザンビアの学校支援のためのクラウドファンディングに約 100 名の方々がご支援くださり 1,027,000 円の支援金が集まった。
(手数料を引かれ、834,951 円の入金があった。)

-
- 2 月 * ザンビア孤児院のムタレ桜子さんが日本に一時帰国した。(2/26~3/6)

-
- 3 月 * ザンビア孤児院のシオン桜子ムタレさんは、東京、長野県、広島、兵庫県川西市、三重県四日市市でザンビアの報告会を行った。
- * NPO 法人「青少年ワールドサポート 21」様のチャリティパーティに招待され、ザンビアスタッフのムタレ桜子さんがザンビアの働きについて報告した。
(3/10)
- * ザンビア孤児院のムタレ桜子さんは、東京お茶の水で行われた他団体の集会でザンビアの働きについての報告を行った。
- * 日本に一時帰国していたブラジルの松本弘子さんは、休暇を終えブラジルに戻った。
- * 日本に一時帰国していたザンビア孤児院のムタレ桜子さんは、ザンビアに戻った。

*** カンボジア孤児院の活動 ***

【4 月】

- * 2024 年 1 月~3 月までの活動報告書と会計報告書を社会福祉省 3 ヶ所、プノンペン市に提出する
- * チャンがパン屋さんで仮採用スタッフとして働き始める。
- * スタッフ 1 人が、職業訓練校で調理実習に参加して学び始める。
- * 孤児院卒業生のミヤとメーン、カイがお正月の為の差入れを沢山持って来てくれた。
- * 孤児院卒業生のヴォティーが 1 年間アメリカに行くことになり、ID カードの住所が孤児院になっている為孤児院に在籍していたという証明書が必要ということで、作成して政府機関の証明印を押されたものを渡す。

【5 月】

- * 孤児院卒業生のメーターとヨハンが礼拝に来て、差入れも持って来てくれた。
- * トゥールコーク地区に、2024 年 3 月~4 月分の活動報告書と会計報告書を提出する。

【6月】

- * テュリーが職業訓練校でコーヒー作りを選択して6ヶ月間学ぶことになった。
- * 他団体で働いておられる理学療法士の方が、リザを診に来て下さった。
- * 孤児院卒業生のスレイレヤとマイが、差入れを持って来てくれた。
- * スタッフ達に、年2回の年功序列補償金(前払退職金のようなもの)1回目を支払う。

【7月】

- * 社会福祉省(3ヶ所)とプノンペン市に2024年4月~6月までの活動報告書と会計報告書を提出する。
- * トゥールコーク地区に、2024年5月~6月分の活動報告書と会計報告書を提出する。
- * 他団体で働いておられる理学療法士の方が、リザを診に来て下さった。

【8月】

- * チャンが仮採用から本採用になって、パン屋さんで働くことになった。
- * 一般の方でNさんという方が日本から訪問して下さった。
- * 車をいろいろ紹介してもらった中から、2005年車のトヨタ車 Sienna(シエナ)7人乗りを選択して購入できた。購入後、メンテナンスを行い、今後も定期的な点検が必要と整備士の方にアドバイスを受けた。
- * 孤児院卒業生のメーンが働いている上司の方とメーンと一緒に来て、会社からご支援の品々をいろいろ頂いた。
- * ナオミが1年間の日本留学を終えて、カンボジアに戻ってきた。

【9月】

- * トゥールコーク地区に、2024年7月~8月分の活動報告書と会計報告書を提出する。
- * スタッフのスウンのお義母さんから、孤児院の子ども達にとカンボジアカレーの差入れを頂いた。家族で訪問して下さった。
- * チャントムとチャンの、孤児院からの自立手続きの為、住所変更は親戚の方と政府機関の方々の立会いの下行われた。
- * スレイヴィーが通っていた幼稚園の卒園式が行われた。
- * ノエとソティヤが通っていた学校で、卒業式が行われた。

【10月】

- * 孤児院卒業生のシナーが、久しぶりに来てくれた。
- * 孤児院卒業生のカイの家族と別の日にはパニットの家族が来てくれて、沢山の差し入れを持って来てくれた。

- * 2 台目の電動ポンプを購入することが出来た。
- * 社会福祉省（3 ヶ所）とプノンペン市に 2024 年 7 月～9 月までの活動報告書と会計報告書を提出する。

【11 月】

- * スレイヴィーが小学 1 年生になるので、入学願書を提出した。
- * 日本の NPO 団体のコミュニティ時津からお 2 人の方々が訪問して下さり、沢山のご支援の品々を頂いた。
- * 孤児院卒業生のヨシュアが久しぶりに来てくれた。
- * 1 階の外壁のタイルが壊れたので、スタッフと男の子達が修理してくれた。
- * 孤児院卒業生のサヴィーのお友達という方から、子ども達へのおやつを沢山頂いた。
- * トゥールコーク地区に、2024 年 9 月～10 月分の活動報告書と会計報告書を提出する。

【12 月】

- * 以前孤児院スタッフとして働いて下さった平良裕子さんが、訪問して下さった。また、沢山のご支援の品々を持って来て下さり、日本の料理もスタッフ達に教えて下さった。
- * トゥールコークの社会福祉課から 4 人の方々が視察に来られた。
- * 孤児院の元スタッフだったご夫妻より、米と沢山の野菜を頂いた。
- * 孤児情報が入ったので、スタッフ 1 人に情報の確認に行ってもらった。その後、情報が事実ということがわかったので、受入れの為に前田とスタッフ 2 人が一緒に地方まで出掛けて、政府機関の方々の同席の元、孤児となった姉と弟の 2 人を受入れた。
- * 政府機関より、家族の行方がわからない乳幼児を家族が見つかるまで 1 週間ほど預かってほしいと言われたので、2 歳くらいの男の子を預かった。
- * 前田分の 1 年間の NGO ビザ更新手続きが終わり、パスポートと共に新しいビザを受取った。
- * 孤児院卒業生のマイが来てくれて、手作りのおやつのお差し入れを持って来てくれた。
- * 職業訓練校でコーヒー作りを学んでいたテュリーが、試験に合格した。
- * スタッフ達に、年 2 回の年金（年功序列補償金）2 回目を支払う。

【2024 年 1 月】

- * 孤児院卒業生のチャントムとチャンが、子ども達におやつのお差し入れを持って来てくれた。
- * 前田分の外務省から発行して頂いている ID カードの更新が無事に完了。
- * 孤児院卒業生のカイが来てくれて、子ども達におやつのお差し入れがあった。

- * 男の子達の部屋のタイルと女の子達の部屋のタイルも突然盛り上がって来て、スタッフが男の子達と一緒に直してくれた。
- * 12月から預かっていた2歳くらいの男の子は、家族が見つからず孤児院で受入れる手続きを行った。
- * 孤児院で働いていた元スタッフの夫妻から、野菜や肉、果物などを頂いた。
- * 2024年10月～12月分の活動報告書と会計報告書を社会福祉省3ヶ所とプノンペン市に提出する。
- * トゥールコーク地区に、2024年11月～12月分の活動報告書と会計報告書を提出した。

【2月】

- * 外務省に2024年1年間の活動報告と会計報告、スタッフリスト、納税済書類3ヶ月分を提出する。
- * 孤児院卒業生のメーンとマイが来てくれて、子ども達におやつを差入れを持って来てくれた。
- * 財務省に、2024年1年間分の活動報告書と会計報告書、スタッフリスト、外務省と社会福祉省のNGO更新書類のコピーを提出する。
- * 孤児院卒業生のサヴィーのお友達からチョコレートを沢山送って頂いた。

【3月】

- * 孤児院卒業生のチャントムとチャンが、子ども達に沢山のおやつを持って来てくれた。
- * トゥールコーク地区に、2025年1月～2月分の活動報告書と会計報告書を提出した
- * ヴァンディーが幼稚園に行く手続きを行った。

【現在孤児院で生活している孤児】

男子7名 女子10名 計17名

(内訳) 未就学児	男子1名	女子2名
幼稚園	男子1名	
小学生	男子2名	女子4名
中学生		女子1名
高校生		
大学生	男子1名	女子2名
職業訓練生他	男子2名	女子1名

これまでに受入れた孤児数 45 名（男子 26 名＋女子 19 名）
孤児院から自立した子ども達の数 28 名（男子 19 名＋女子 9 名）
現在孤児院にいる子ども達の数 17 名

*** ブラジル孤児院の活動 ***

2024 年

4 月 * イラストを月 1 回のニュースレターに投稿

11 月 * サンパウロ州アラサトゥーバ市内の児童学習支援施設へクリスマスプレゼントをする。

2025 年

1 月 * アニメ制作チームとしてフィルムフェスティバルに作品を出品する。

 * 日本に一時帰国し、東京、高円寺で報告会。

3 月 * 長野県白馬村にて報告会。

 ザンビウムタレ桜子スタッフの報告会に参加 する。

 * 日本への一時帰国を終え、ブラジルに戻る

他の活動を行ないました。

*** ザンビア孤児院の活動 ***

Cornerstone Of Hope 活動

2024 年 4 月

プライマリー JICA 協力隊員調整員による環境調査が行われた。

セカンダリー

共同 鳥取大学インターン大学生（予定 5 か月間）初顔合わせ

Tiger mov(スタディーツアー等斡旋会社)との今夏予定策定ミーティングを開始する。

Good Neighbors Zambia (韓国の国際 NGO 団体) の訪問を受ける。

COH プロモーションビデオ撮影

International School Of Lusaka の小学生に活動紹介をする。

現青年海外協力隊員の後任者希望要請書を提出する。

5月

プライマリー

セカンダリー

共同

全教員に向けてチームワークトレーニングを行う。

DC(外交官たちによる慈善団体)から寄付支援先と選定され、そのファン
ダライズイベントの準備をする。

6月

プライマリー

セカンダリー

共同

Tiger mov とオンライン事前ミーティングを行う。

セカンドライフ(日本の NP0. 不用品を途上国に支援)の訪問と寄付物
品配布。大使館表敬訪問。

Good Neighbors Zambia よりミルミル(主食のトウモロコシ粉)の寄付
をいただく。

7月

プライマリー

セカンダリー

共同

Tiger mov とオンライン事前ミーティングを行う。

インフィニティ国際学院海外研修オンライン事前ミーティングを行う。

Good Neighbors ドナーたちの見学訪問。歓迎イベント(昼食会、植樹
など)を行う。

広島大学大学院生の見学訪問。

8月

プライマリー

セカンダリー

共同

Tiger mov ザンビアを訪問(1~12日)子どもたちと交流やイベント。

DC(外交官たちによる慈善団体)からの寄付物品セレモニーが行われ
た。

Good Neighbors から慰労の昼食会の招待を受ける(全スタッフ)

鳥取大学インターン生、期間終了する。

9月

プライマリー

セカンダリー

共同

JICA 調整員の訪問があった。

短期高校生インターン訪問

広島大学学生(12人)見学訪問。

ユーチューバーのガンブ松本さん学校を訪問。

インフィニティ国際学院と事前オンラインミーティングを行う。

10月

プライマリー

WTP(ワールドシアタープロジェクト)と短編映画上映会を行う。

7年生、国家試験を受ける。

セカンダリー

共同 フレンチスクールの教員とディレクター訪問見学を受ける
独立記念セレモニーが行われる。

11 月

プライマリー WTP(ワールドシアタープロジェクト)と短編映画上映会と絵画作成を行う。

教員研修(他学校見学)を行う。

セカンダリー フレンチスクール教員による美術の授業が始まる。

共同 WTP(ワールドシアタープロジェクト)と事前ミーティングを行う。

With the World とミーティングを行う。(活動紹介)

クラウドファンディングに申請する

12 月

プライマリー 7 年生の卒業式兼クリスマス会を行う。

セカンダリー フレンチスクールのクリスマスイベントで屋台販売を行う。

共同 インフィニティ国際学院と事前ミーティングを行う。

ルサカゴルフクラブから寄付物品をいただく。

2025 年 1 月

プライマリー 教員識字教育セミナーが行われる。

新規雇用教員面接を行う。

全児童の身体測定を行う。

インフィニティ国際学院の方々がザンビアを訪問。(21 日～2 月 14 日)

セカンダリー フレンチスクール教員による仏語授業が始まる。

共同 新カリキュラム学習会が行われる。

JICA 協力隊員調整員の訪問を受ける。

2 月

プライマリー

セカンダリー インフィニティ国際学院によるプロモーションビデオ撮影が行われる。
8 年生が入学する。

共同 フレンチスクールで第一回オフィシャルミーティングが行われる。

東京大学の学生の訪問を受ける

ムタレ桜子スタッフ日本に一時帰国する(2 月 26 日～3 月 6 日)

*** 礎の石孤児院 フィリピン ***

【就学支援の働きに関して】

私たち礎の石孤児院フィリピンでは貧困のために学校へ行けない子どもたちの就学支援をしています。

私たちは経済的な支援だけでなく、精神的にも霊的にも子どもたちの成長を助け支えていくことを目標としています。彼らの親たちでさえ教育の重要性を信じていませんし、読み書きが出来るようになれば十分と考えています。しかし子どもたちが学校に通うことを通しての思った以上の成長と成果を見て驚き喜んでいます。

子どもたちの成長と将来のために暖かいご支援を続けて下さっている皆様に心から感謝しています。皆様が私たちを信頼してフィリピンの子どもたちに対する働きを支援してくださっているということは私たちがこの働きを続けていく上で、またさらに働きを強めていく上での大きな励ましと力になっています。

礎の石孤児院フィリピンは 1995 年から 32 年間働きを続けています。その中で 1141 名の子どもたちの就学を支援してきました。何名かは高校卒業まで続けることが出来なかった子どもたちもいますが、受けた恵みを忘れることはありません。

2024 年度は皆さまの尊いご支援により、34 名の子どもたちの就学を支援することが出来ました。ファンドクリエイション基金様からの助成金（5 万円）も活用させていただき、学用品の購入ができました。

2025 年度は 32 名の支援を予定しています。

2025 年度 32 名の就学支援のために、まず学用品(文房具、制服、体育着、カバン、靴など)のための必要として US\$3, 674. 82(※¥551, 223)、また学校の登録費、授業料、各教科の課題や学校行事参加費用(衣装製作費等も含む)や学校への寄付金も含め US\$3, 675. 00(※¥551, 250)、さらに学用品等を各スタッフや、各地域の子どもたちに届けるための交通費として US \$688. 86(※¥103, 329)、合計で US \$8, 038. 74(※¥1205811)の必要があります。

※1 ドル 150 円で換算

私たちは新学期の授業が始まる前に学用品を購入し各地域の子どもたちに届けます。

活動予定として

5 月 学校登録開始。学用品の購入しマハヤハイ、スモーキーマウンテン。カタルナンペクーノ、カリナン、スアワン各地域の子どもたちに届ける。

6 月 16 日から 1 学期スタート。保護者向けオリエンテーション。

7 月 P T A ミーティング。議題は学校への寄付(扇風機、テレビ、掃除用具等)について。

9月 生徒会選挙。

10月 全国共通テスト。

11月 2学期のPTAミーティング。

12月 就学支援生全員集合の感謝パーティー。

2月 スポーツ大会。

3月 31日学期修了。

4月 進級式、卒業式。

その他学校では毎月、「フィリピンの文化と言語月間」「栄養月間」「子ども月間」「国連月間」「ボーイスカウト・ガールスカウトキャンプ」「教師月間」「クリスマス」等、その月ごとのイベントがあります。

フィリピンの子どもたち子どもたちに対する皆様の暖かいご支援に言葉では言い尽くせないほど感謝しております。来年度も32名の子どもたちの夢と希望を現実としていくために、引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします

*** ファミリーホーム開設及び支援に向けての活動報告（日本） ***

ファミリーホーム開設のためのチームによる調査項目・検討課題

（メンバー；真境名総主事、永戸マリヤ（四日市在住）、加藤いつみ、吉野浩美）

〈東京都庁からの提言〉

- ・ 特定非営利活動法人礎の石孤児院として法人でファミリーホームの働きを行うことが出来る。
- ・ 手順があるので、まず、養育者・養育補助者を立て、児童相談所との関わりを通して、進めていく。

〈調査項目・検討課題〉

- ・ ファミリーホームは法人型と個人型（里親移行型）がある

- ・法人型の場合、東京事務局が全面的に会計管理を行う必要があるのか？
 - 今後、ファミリーホームが全国展開され、開設される数が増えた場合、会計管理はどうなるのか？

- ・法人型の場合、職員の労働時間の問題（労働基準法）をどのように調整するのか？
 - 【労働管理について】

ファミリーホームを法人型で行う場合特殊な労働形態となり、「みなし労働」について労働基準監督署に確認し、職員の労働時間の協定書を整備した。との事例があった。
 - 【みなし労働時間制とはなにか】

労働基準法では使用者が労働者を働かせていい時間は1日8時間、週40時間までとしているが、労働者のおこなう業務によっては、労働者に労働時間の配分をまかせたほうが合理的なケースや、労働時間の把握をすることが難しいケースは事前に決められた時間を働いたとみなす【みなし労働制】が認められている。

- ・法人型の場合、監査は厳しいが補助金が多く出るのではないかな？
- ・個人型の場合、養育者がファミリーホームの責任者となるが、「礎の石孤児院」としてのファミリーホームの働きとして成り立つか？方針、運営方法に一致が持てるか？礎の石孤児院のカバー、教会のカバーをどのようにからめるのか？
 - 個人型の場合、養育者は礎の石孤児院の職員になり、礎の石孤児院に属する歩みをしていただく。
- ・法人型でも養育者1人は絶対にその住居に住む。
- ・夫婦プラス補助者でもよい。ご主人が外で働いてもよい。
- ・三重県には個人型が5つある
- ・法人型ファミリーホームの設置事例の一部の例
 - ① 母体；社会福祉法人（児童発達支援センター等）・・・里親をしている職員がいる中で法人化に至る。
 - ② 母体；特定非営利活動法人（介護保険グループホーム等）・・・障害者支援相談員が里親を始め、法人の助けを得るため法人化を決める
 - ③ 母体；社会福祉法人（児童養護施設）・・・児童養護施設がファミリーホームを設置運営
 - ファミリーホームを開設するには地域住民との関係性について、丁寧な対応が必要
 - 信頼を得るために自治会への参加などを通して段階的にアプローチしていく必要
 - 近隣住民の信頼が得られないと設置運営を反対されてしまう。

・ファミリーホーム設置の地域、近隣住民の信頼を得ていくために、その地域にて里親からスタートし、その地区の児童相談所との関わりの中で、ファミリーホームに移行する方向を検討。

・ファミリーホームの働きを希望の鹿児島の高原夫人のお知り合い（奄美大島在住）の方との話し合いも行っていく。

【措置費について】

里親の場合

- ・ 児童委託費として毎月里親手当が支給される。
- ・ 児童に対して、一般生活費として衣食住に係る諸費用、医療費、教育費が支給される
- ・ 0歳児から就学前は措置費が高い

ファミリーホームの場合

【事務費】・・・職員の人件費、事務の執行に伴う費用（月額保護単価×入所児童数）が支給

【事業費】・・・子ども達の一般生活費、医療費、教育費が支給

* 毎月・ニュースレターを発行、全国のパートナー会員に発送いたしました。